



## 「スギ花粉を服用したら、スギ花粉症が治った」ということ

本間 真紀子

(本間医院 院長)

2016年4月、休日の朝にさっそうと子供さんと一緒にランニングをする29才の保健師さん。でも、1年前の同じころ、職場の保健室ではスギ花粉症で鼻水とくしゃみと涙目がひどくて、ずっとマスクとティッシュが離せない状態でした。やっと春になったのに洗濯物は外に干せずじまい。まして布団を干すなんてとんでもないといった日常。それで提案したのが、スギ舌下免疫療法のシダトレンというお薬でした。それが今年の春は、外に干したお日様の臭いのする布団で、快適な眠りにつくこともできるようになりました。これこそが、「スギ花粉を服用したら、スギ花粉症が治った」と今回のテーマです。

春になると、花粉症対策の白いマスク姿の人々が町中が溢れかえっています。人口の4人に1人と、国民病ともいわれるスギ花粉症。今までは、「体内に取り込まれた花粉があるレベルを超えると発症するため、マスクなどで花粉を極力吸い込まないように」と言われていました。しかし、この予防策には、実は明確な科学的根拠が存在しなかったのです。また、スギ花粉症は、日本などアジアの一部だけに発症します。それは、そもそも中央アジアや西アジア、ヨーロッパではスギが分布していないためです。そこで、政府は1995年、通称「ハクション議連」なる対

策を立ち上げ、日本独自のスギ花粉症をはじめとするアレルギー疾患に対して、研究予算を増額しました。そして2014年10月、鳥居薬品が世界初のスギ花粉を原料としたエキスである「シダトレン」発売にこぎつけたのです。

当初は、「免疫療法」という聞き慣れないフレーズと、毎日口の中に2分間含んだあとに呑み込んで、しかも最短でも2年は続けなければいけない、という服薬方法が、多忙な現代生活に受け入れて貰える機会は少なく、知る人ぞ知る、限られた方のお薬でした。

しかし、

- \* 毎日数回、歯磨きはしますよね。
- \* この薬は、1日たった1回でいいんです。
- \* 今までの治療法とは、効能が全く違うんですよ。
- \* 体質改善できるお薬は、これだけなんです。
- \* いずれアレルギーのお薬がいらなくなる位、よくなります。
- \* 若い人ほど、これからの生活の質（QOL）が改善されます。
- \* 10代でアレルギーを治して、元気に社会に旅立ちませんか。

などといった説明を、繰り返してお話させて頂きました。2015年末に改訂されたアレルギー

性鼻炎ガイドラインで、「患者さんの重症度にかかわらず、免疫療法が花粉症の基本的な治療法に位置付けられている」ことも追い風となりました。その甲斐があったかどうか、自院での患者さんは総勢35人となり、この機会に3年目に入った治療効果をまとめてみたいと思います。

**年齢（図1後掲）：**当院では、主に生活習慣病で受診している中高年層の患者さんが、併せてスギ花粉症治療も希望されました。

**効果と継続率（図2同）：**やや効果ありも含むと、85%と高い改善率です。一方で、治療の効果をほとんど感じていない患者さんは、約10%しかおられません。また、治療中断は2名のみ（6%）とほんのわずかでした。この治療を継続するあいだに、効果を日ごとに実感でき、また思ったよりも煩わしさが少ないことも継続できた理由のようです。実際、「夜眠れるようになった」「使用するティッシュペーパーの量が大幅に減った」「マスクをしなくともよくなった」「風邪を引かなくなった」と、具体的な自覚症状の改善を話されています。

では、何故、このお薬がこんなに効くのでしょうか。これは、22年前の1995年に日本人科学者が、ある特殊な免疫細胞の存在を突き止めたことに起因しています。その免疫細胞は、`制御性T細胞（Tレグ）`。Tレグは今まで、その存在すら知られていませんでした。それを大阪大学免疫学フロンティア研究センターの坂口志文教授が発見しました。先生はここ数年、毎年ノーベル賞発表の時期になると、その候補者として名前が挙がり、2015年3月にはノーベル賞の登竜門とも言われるガードナー国際賞を受賞されました。

なぜ、アレルギー反応が起こるか。それは、

私達の体を守るべき免疫システムが誤りを犯し、暴走することで起きます。本来、これらの免疫システムは、病気を引き起こすウイルスや細菌、体に害のある癌などの異物が体内に入り込んだ際にそれを発見、攻撃して体を守るのが役割です。しかしアレルギーの場合、免疫システムは、体に害がない花粉や大切な栄養である食物までも敵だと見誤り、攻撃してしまうのです。でも、もし免疫システムが外敵を攻撃する細胞群だけだったとしたら、色々な不都合が起こるはずで、1つは敵が全滅した場合です。2つめは、免疫システムが間違った攻撃をした場合です。こんなときでも攻撃指令を出したとしたら、それは健康な自身の体を傷つけてしまうことになります。ですから、何らかの攻撃を止める安全装置があるに違いない、と考えたのが研究の発端だったのです。そしてあるとき、ネズミの実験中にこの誤りを押さえ込む細胞を発見しました。それこそが、`Tレグ`、だったのです。そして、スギ花粉症のシダトレンは、このTレグを作るしくみを助けているためにこんなにも効果を発揮できました。ただし、このTレグを作るには一般的に3~5年間、毎日舌下投与し続けることが必要になります。くぎりとしては、まず2年間。ここで一旦効果判定を行い、お薬を続けるかどうかを患者さんと相談して決めるのです。

**効果の経過（図3同）：**実際、継続することで、年々効果がアップしていることがわかります。

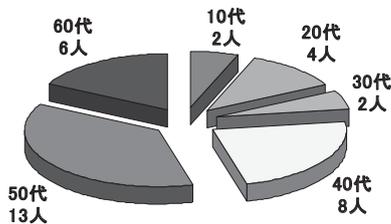
研修医の頃、指導医の先生からの一言が今でも脳裏に焼き付いています。「体質と性格、は治らないんだよ…。あれから約40年、2014年11月から当院で導入した舌下免疫療法が、こんなにも体質を改善できるとは、感無量です。

そうなると、65才まで、という保険適応の年齢制限が、ちょっと（いえ、大分）不満です。超高齢化社会の現在、65才から余裕で20～30年は健康長寿できるかたもおられるからです。ちなみに医療費は、月のお薬代が1500円ほど（3割負担）。何千万円という抗がん剤がある時代、患者数は比べものにならないほど多いかもしれませんが、生活の質（QOL）を向上できる点で、費用対効果は群を抜いています。更に、副作用がほとんどないこともメリットなので、スギ花粉症の方が1度は考えてみる耳寄りな治療法と言えそうです。

ただし、三日坊主の方以外は…、ですけどね（笑）。

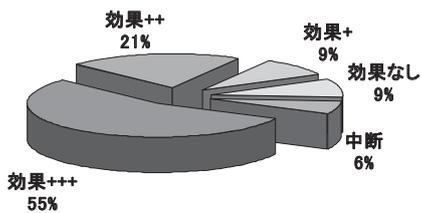
年齢（図1）

年齢分布



効果と継続率（図2）

効果と中断



効果の経過（図3）

効果判定

